果樹 1月・2月の柑橘園管理

果　樹
原口　悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 品種の収穫時期について

品　種	区　分	収穫基準日（目安）
露地デコポン	レギュラー	1/ 1より
甘　夏	レギュラー	1/ 1より
天草文旦	完熟園	1/ 20より

2. 中晩柑の収穫と予措・貯蔵

腐敗果防止の為、収穫時は果実にキズをつけないよう丁寧に扱い、下の表を参考に予措を実施しポリ個装を行ってください。

品　種	予措期間（減量割合）	予措湿度
デコポン	14日（3%程度）	85～90%
ポンカン	30日（7%程度）	85～90%
甘夏	14日（3%程度）	90%

3. 土づくり

良い作物作りはまず健全な土づくりから始まります。下記の表は 10a 当たりの目安量となりますので、表の基準を参考に投入してください。

時　期	資材名	10a当たり	備　考
2～3月（収穫後）	堆肥	2,000kg	完熟物
	客土	4,000kg	3cm以内
	ヤシガラ	20袋以上	2キュービック（120ℓ／ 11kg）
	土の恵み	12袋以上	堆肥・ヤシガラの代わり
	天然フルボ酸（粒）	3袋	ミネラルバランスの調整

4. 樹勢回復対策

収穫が終わった園では速やかにチッ素主体の葉面散布を行い、樹勢回復を行って下さい。

薬剤名	希釈倍数	備　考
尿素又はアミノジューシーN14又は神協スピリッツ	500倍	収穫後3回以上集中散布を行いましょう。

5. 施　肥

時期	資材名	対象品種	10a当たり	備　考
2月上旬	炭酸苦土石灰	全品種	10袋	
	新有機中晩柑一発	河内晩柑・清見・甘夏・パール柑・デコポン	10袋	超省力化タイプ（年1回施肥）（11 月施肥をしている場合 2 袋減）

野菜 オクラ栽培について

野　菜
山下　伸一
下島営農指導センター
080-1729-1630

作業項目	
播種準備	●元肥は全面施用する。元肥の施用が多すぎると、初期生育が旺盛となり花止まりが悪くなるので、肥料の種類、前作の残量、施肥時期に注意する。（特に前作が野菜の場合は施用を控える） ●レタス栽培跡地は原則無肥料とする。 ●管理、収穫作業を便利にするため、通路はなるべく広く取るようにする。 ●水分条件の良い時、施肥、畦立てしマルチまで行う（早ければタバコのように年内でも可、また早蒔きはグリーンマルチも効果大） ●畦立てはなるべく高畦とする。（25cm程度） ●播種前、10日以上トンネルをして地温を高めておく
播種	●播種時期　3月中旬～4月下旬直播又は、移植する。 ●オクラの播種は硬実種子のため1昼夜ぬるま湯に浸漬してから播種する。 ●播種要領は1穴当たり5粒蒔きとし（10a 2ℓ）指先で軽く鎮圧し、無病の土（育苗床土等）で被覆する。その際、深蒔きに注意する。（注意：播種時の過湿・地温不足は種子が腐敗しやすい。） ●無理な早蒔きは、地温が低いので発芽揃いが悪く苗立枯れ病発生の原因となる。 ●欠株対策として、補植苗を準備しておく。（10a当たり500本程度）
温度管理	●日中30℃を超えないよう換気に努める。
苗立枯れ病	●生育初期に発生が多いので低温、多湿を避けるように予防対策を徹底する。
トンネル除去	●5月上～中旬頃外気温が15℃を保つ時期の風のない温暖な時にトンネル除去を行う。

必要な生産資材（10a 当たり）			
品名	規格	2条植え	1条植え
マルチ	150 幅	3本	
マルチ	135 幅		4本
種子	1ﾘｯﾄﾙ 10000 粒目安	2.2ﾘｯﾄﾙ	2.0ﾘｯﾄﾙ
トンネル支柱			
トンネルビニール			

詳しいことは地区の担当者又は、栽培講習会等でお聞きください。

花卉

金魚草主な病害虫防除について

花　卉
吉澤　清
下島営農指導センター
080-1774-5386

1)害虫

1. アブラムシ

新芽や花穂に寄生し、生育を阻害したり排泄物によるすす病を誘発して品質を悪くします。また、CMVを媒介したモザイク病の発生要因となるので早期防除を徹底します。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。

農薬名	希釈倍率	使用回数
アドマイヤーフロアブル	2000倍	5回以内
オルトラン水和剤	1000倍～1500倍	5回以内
モスピラン水溶剤	4000倍	5回以内

2. ヨトウムシ類

葉や茎、花蕾など食害します。2齢までは群生しているので早期に発見して防除します。3齢以降は分散して食害量も多くなり、薬剤への感受性も低下します。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。

農薬名	希釈倍率	使用回数
アファーム乳剤	1000倍	5回以内
コテツフロアブル	2000倍	2回以内
ノーモルト乳剤	2000倍	2回以内

3. スリップス類

葉や花弁を加害し、品質低下の原因となります。特に花に寄生した場合はカスリ状に発色不良を起こし、著しく商品価値を損ねます。

防除方法…防虫ネットを使用します。ハウス周辺の雑草を取り除きます。粘着テープを使用します。

農薬名	希釈倍率	使用回数
スプラサイド乳剤40	1000倍	6 回以内
スプラサイド水和剤	1000倍	6 回以内
チェス水和剤	3000倍	4 回以内

2)病気

1. 灰色かび病

花、茎、茎に発生します。花では水浸状、淡褐色～あめ色の小斑点が形成され、やがて花全体に病斑が拡がり、淡褐色に変色して仮死します。葉では暗緑色～灰緑色、水浸状、の病斑を生じ、乾くと淡褐色になる。茎では同様の病斑を生じ、病斑が茎を取り巻くと病斑より上部は萎凋、仮死します。多湿時には羅病部に淡褐色、紛状の分子の集塊を豊富に生じる。

防除方法…十分な換気をします。潅水はなるべく晴れた日に行います。発病株は圃場外に処分します。

農薬名	希釈倍率	使用回数
トップジン M 水和剤	1500～2000倍	5 回以内
ロブラール水和剤	1000～1500倍	8 回以内
ゲッター水和剤	1000倍	5 回以内

2. 菌核病

おもに茎の途中や地際部に発生し、羅病株は萎凋します。病勢が進むと茎の浸された部分が変色し、やがて白色の菌糸が生え、ネズミの糞状の菌核を生じます。また、茎の内部にも菌糸が充満し、菌核の形成が認められます。菌核の生前期間は1～2年あり、これが翌年の発生源となるので、発生株は放置せず、圃場外に持ち出して適正に処理します。比較的気温が低下した冬場に多く、換気不足や多湿条件が発生を助長します。

防除方法…十分な換気をします。潅水はなるべく晴れた日に行います。

農薬名	希釈倍率	使用回数
トップジン M 水和剤	1500～2000倍	5 回以内
ロブラール水和剤	1000～1500倍	8 回以内
ポリベリン水和剤	1000倍	5 回以内

3. 茎腐病

地際部の茎に発生します。最初に日中の萎凋症状が観察されます。地際部の茎がくびれ、表面から褐白色に乾腐、やがて内部に褐色が及び株全体が枯死します。葉の黄化や根の腐敗はほとんど認められません。土壌伝染によって発生するので、定植前に土壌消毒を行っておきます。

防除方法…植え付け前の土壌消毒をきちんと行います。(バスアミド微粒剤)

農薬名	希釈倍率	使用回数
オーソサイド水和剤80	600倍	―
トップジン M 水和剤	1500～2000倍	5以内
ベンレート水和剤	2000倍～3000倍	6以内

尚、農薬については金魚草での登録がありませんので、薬害には充分気をつけて使用してください。

中古農機具・設備を探しています！

「ハウス加温機用2キロリットル重油タンク・防油堤付き」1台を探している組合員さんがいらっしゃいます。

譲って頂ける方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡をお願いします。

連絡先：ＪＡあまくさ購買部　農機生産資材課　山村まで
TEL. 0969−22−1104

※写真はイメージです。